

Rotary



神奈川県東ロータリークラブ

KANAGAWA EAST ROTARY CLUB

2015-2016年度 第26週報 No. 1915 2016年(平成28年) 1月15日 第1915回 例会記録 1月22日発行

本日〈1月22日〉のプログラム

- ◆ 斉 唱 「それでこそロータリー」
- ◆ 献 立 ポークカレー
- ◆ 卓 話 「サーバント リーダー」
プロサーファー 南保 芳徳 様
(紹介者 佐藤 勝彦 会員)

<< 本日のBGM >>
アルバム「QUIET KENNY」 / KENNY DORHAM



PHOTO 小池将夫会員

司 会 小山 市康 副幹事

点 鐘 江森 国一 会長

斉 唱 「我等の生業」

四つのテスト 山本 芳弘 職業奉仕委員長
(第1例会のみ)

ゲスト紹介
露木 雄二 様 (地区戦略計画委員会 委員長)

ビジター紹介 横浜RC 荒井 稔 様
神奈川RC 金野 克佐 様

幹事報告 朝日 達夫 幹事

・本日、例会終了後に1月度定例理事会を開催致します。

場所 3F ナイト

・次週、例会終了後に職業奉仕によるクラブフォーラムを開催致します。大勢の参加をお願い致します。

委員会報告

雑誌委員会 委員長 森永 健

【縦野「挑戦 二戸から世界へ・・・」より】

岩手県で世界から評価されている酒造会社の挑戦と経緯が詳しく紹介されていて、大変興味深い内容となっております。特に最終章の「現在の成功は過去の歴史の継続の上に成り立っている」という記述は大変示唆に富んでいると思いますので、是非ご一読して下さい。

2015-2016年度 RI会長 K.R. “ラビ” ラビンドラン



世界へのプレゼントになろう

第2590地区 ガバナー 箕田 敏彦

会 長	江森 国一	会 計	渡邊 淳
会長エレクト	植田 清司	副 会 計	白井 康夫
副 会 長	矢野 修二	S A A	長井 章
副 会 長	加藤 仁昭	副 S A A	白鳥 厚夫
幹 事	朝日 達夫	副 S A A	澁谷 高弘
副 幹 事	小山市康	クラブ会報	田中 龍太郎

例会日 毎週金曜日 0:30 ~ 1:30 PM (第5金曜日 6:00 PM)
例会場 ホテルキャメロットジャパン
URL <http://www.kanagawahigashi.com/>
E-mail kerc@beach.ocn.ne.jp

事務局 ホテルキャメロットジャパン内
〒220-0004 横浜市西区北幸 1-11-3
TEL: 045-314-3900 FAX: 045-314-3555
創立記念日 昭和51年5月29日

【横野 「寄付に込める思いと願い」より】

米山学友のベトナム人の方が両国の経済強化、文化交流の功績から叙勲を受けたとの記事が紹介されています。米山のあり方を示す一つの指針ではないかと考えますので、ご紹介をさせて頂きました。

1月15日	14件	37,500円
本年度累計		1,218,913円

出席報告

会員総数	52名	(31+21)名	
出席会員数	45名	(28+17)名	
出席率	93.75%		
ゲスト	1名	ビジター	2名
前回補正後	93.88%	前々回補正後	91.67%

スマイルボックス 澁谷 高弘 副SAA

地区戦略計画委員長 露木雄二様（横浜瀬谷RC） 本日は、戦略計画についてのお話をさせていただきます。よろしくお願致します。

横浜RC 荒井 稔様 本日は、よろしくお願致します。

神奈川RC 金野克佐様 今年もよろしくお願致します。

江森国一君 ①昨日の40周年合同委員会参加の皆様、ご苦勞様でした。②地区戦略計画委員長の露木様、卓話よろしくお願致します。

富居利貞君 新年、明けましておめでとうございます。今年もどうぞよろしくお願致します。

田邊正彦君 先週遅刻致しましたので、ニコニコ出来ませんでした。改めて、本日、ご挨拶させていただきます。明けましておめでとうございます。今後ともよろしくお願致します。

吉田隆男君 露木バストガバナー、本日はご指導よろしくお願致します。

山本 登君 新年、初出席。本年もよろしく。

河野明光君 露木地区委員長、クラブの戦略計画のご指導、よろしくお願致します。

西山 潔君 露木様、本日の卓話、よろしくお願致します。

茂木知子さん ～会員増強～年頭の挨拶で、会員増強を強く要請されました。窮余の一策で、隣席の山本会員に新会員のご紹介をお願いしました。快諾を得て、幽霊会員を紹介して頂くことになりました。難点は足がないこと。昼間は姿を見せにくいことだそうです。

加野亮一君 先週は、結婚祝い、ありがとうございます。

岡部雄一郎君 河野さん、矢野さん、昨日はありがとうございました。

澁谷高弘君 明けましておめでとうございます。世界的に不安が多い時代となってきました。皆で力を合わせて乗り切るよう頑張りましょう。

「クラブの戦略計画作成について」

地区戦略計画委員会 委員長 露木 雄二 様
(紹介者 クラブ戦略計画委員長 河野 明光 会員)



今年度、地区内のクラブに対し、戦略計画の勧めの為の訪問を行っています。

地区に戦略計画委員会が出来てから4年目になりますが、各クラブがようやく戦略計画の必要性に気が付いてくれたようです。勿論、既に、長期計画や戦略計画の必要性を認識して、委員会を設置済みのクラブもありますが、非常に少ないようです。

国際ロータリーも戦略計画の必要性については、数年前から、事あるごとに触れていましたが、地区あるいはクラブの取り組みは成されていなかったのが現状です。活動の前には、必ず計画はあるものですが、実際には単年度が多かったためか、長期的、或いは戦略的に考えた計画は、少なかったのではないのでしょうか。（皆無とは言いませんが）

そこで地区としては、全てのクラブに戦略計画を立てていただくために、SWOT分析による会員の意識調査・分析、会員の総意による戦略計画の策定を目標に啓蒙活動を行って参りました。そして、4年目の今年度、クラブに向いて戦略計画作成のお手伝いをしようと考えて、行動を開始したわけです。

現在、7人の委員が要請により、クラブを訪問し、戦略計画の必要性について、戦略計画の内容について、戦略計画作成の方法、クラブの問題点解決の相談等の支援を行っています。

戦略計画の作成に関しましては、新しく奉仕活動を行うのではなく、既存の奉仕活動を戦略的に再構築することを提案しています。

今まで、何年も奉仕活動を行っているが、マンネリ化して、惰性で行っているきらいがあるなどの反省も多く、より効率的な、内容のある、役立つ奉仕活動にすべくリニューアルするための提案を行っています。

また、戦略計画で特にお勧めは、会員に対する研修を徹底することによる、マンパワーの戦略化です。

人が活性化すれば、クラブも活性化し、奉仕活動も活性化するのはないかとの考えで行われます。

これは、私のクラブの例ですが、一昨年(2014)の7月より、新会員を対象に毎月1回、例会前の30分を研修に充てて実施してきましたが、1年経った昨年(2015)7月に、会員の要望で更に継続して研修を行う事になり、参加者も増え、現在も継続しております。研修を受けている新会員は、ロータリーについての理解も深まったためか、日頃の活動が自信に満ちており、頼もしい状況で現在活動しております。この活動を、新会員だけではなく、既存の会員にも広げていきたいと考えております。これにより、会員の減少はかなり食い止められると考えております。会員維持の為に、非常に有効な活動であると言えますので、全てのクラブで是非実行して欲しいと思います。

さらに、クラブ運営のスリム化も是非考えて欲しいと思います。今までの運営方法における無駄を無くし、ガラス張りの無駄の無い運営を図っていただきたいと思います。楽しくかつ充実したクラブ運営を行う事により、会員、クラブが活性化し、奉仕をする仲間を増やしていただきたいと思います。

皆様のクラブが益々栄え、楽しいクラブライフを实践出来まことを祈念致しまして、卓話を終わらせていただきます。

ご清聴ありがとうございました。

ロータリーニュース

RI会長からのメッセージ

2016年1月

ヒンドゥー教には、ショーナカとアビプラタリという2人の聖人にまつわるお話があります。彼らは、風の神「プラナ」を崇拝していました。ある日、2人が昼食の席に着こうとすると、一人の貧しい学生が戸をたたき、食べものを乞いました。

「少年よ、食事の邪魔をしないでくれ」という答えに学生は驚きましたが、飢えていたため、引き下がりがせんでした。

「高貴なお方たちよ、あなた方はどの神を崇拝していますか」

「風の神、プラナだ」と2人は苛立って答えました。「世界は風に始まり、風に終わります。風は宇宙全体に行き渡るものです」

2人の聖人は、この不作法な来訪者への苛立ちを募らせ、「そんなことは当然知っている！」と答えました。

「それなら」と学生は続けます。「プラナが宇宙に行き渡るなら、宇宙の一部である私にも行き渡るはずですよ。あなた方の前に立って少しの食べものを乞うこの飢えた体の中にも、プラナはいるのです！ですから、私に食べものを与えることを拒むことは、あなた方が信奉する神そのものを拒むことなのです」

学生のこの言葉に真実を見出した聖人たちは、彼を家の中に迎え入れ、食事を分け与えました。このとき2人は、助けを求め人に手を差し伸べることで、この人だけでなく、より壮大な目標に達しようとしていることを悟りました。

ロータリーでの経験は、たいていの場合、地域社会に根づいたものです。私たちは、毎週、同じ場所で同じ仲間と会います。多くの会員がなんらかの形で国際奉仕にかかわる一方で、日々目にするロータリーは地元の色が濃いものです。そんな中で、より壮大な視野や奉仕の真の意味を見失うこともあるでしょう。

個人であれ、クラブであれ、ロータリアンが生み出す影響はすべて、会員の数だけふくらみます。一人の飢えた人に食べ物を、読み書きのできない人に教育の機会を与え、一人の子どもを疾病から守るとき、その影響はごくわずかのように思えますが、実はそうではありません。会員の数だけ存在する力、そして、一人ひとりが行動し、与えることの力を通じてこそ、私たちが目指す「世界へのプレゼントになる」という真の影響を生み出すことができるのです。

貧しい人たちに起業の機会を

: 学友人道奉仕世界賞の受賞者

2015-16年度ロータリー財団学友人道奉仕世界賞の受賞者は、国際開発の分野で活躍するニューヨーク在住のスーザン・デイビスさんに決まりました。授賞式は、6月に韓国での国際大会で行われます。

米国ルイジアナ州で生まれたデイビスさんは、1980-81年度のロータリー財団国際親善奨励学生として、英国オックスフォード大学大学院で国際関係を学びました。1987~1991年には、フォード財団のプログラム担当者として、バングラデシュでマイクロファイナンス(小口融資)の普及を推進。1億7500万ドルの資金を有する共同事業を企画・組織し、当初バングラデシュの農村部の5パーセントでしか利用できなかった小口融資を、44パーセントにまで普及させました。小口融資の普及がバングラデシュの生活水準向上に実際にどの程度貢献したかを断定することは困難ですが、『The Economist』誌は、2010年までの20年間にバングラデシュの人びとの平均寿命が59歳から69歳にまで躍進したと報じています。

デイビスさんはさらに2007年、開発支援団体「BRAC USA」を共同で設立しました。パキスタンから独立直後のバングラデシュを救済する団体として1972年に発足した「BRAC」を支援するこの独立組織は、特にアフリカの女性に教育、医療、小口金融の機会を提供することで、起業を促し、貧困からの脱出を支援しています。

最近、BRAC USAの最高責任者を退任したデイビスさんは、在任中、洪水、サイクロン、地震などの天災だけでなく、戦争や、疫病の流行など、数多くの困難に直面しました。2014年にアフリカ西部で突発したエボラ出血熱の大流行中は、危険度の高い地域で活動するBRACのスタッフを感染から守るために奮闘。エボラ専門家による協力にもかかわらずスタッフが命を落とすこともありました。特に、リベリアで小口融資支援を担当していたスタッフ夫妻が感染し、幼い娘を残して亡くなったことは、デイビスさんにとって大きな衝撃でした。

デイビスさんはその後、その子の将来の学費を賄う奨学金基金の設立を手伝っています。



パキスタンの学校で、子どもたちに写真を見せるデイビスさん

社会起業に関する本の共同著者でもあるデイビスさんは現在、社会起業家の支援団体「ASHOKA」のディレクターを務め、これまでに中東、アフリカ、中央アジアにおける同団体の拡大を監督しました。

今では国際開発の分野で著名な存在となり、2012年にUnited Nations Partnerships Fund (国連国際パートナーシップ基金)の理事に任命されたほか、Council on Foreign Affairs (外交問題評議会)のメンバー、グラミン財団や二つの女性支援基金の理事会メンバーを務めています。

これまで多くの賞を受けたデイビスさんですが、今回のロータリー財団学友人道奉仕世界賞には特別な意味があります。

「これで人生に一区切りついた気がします」と語るデイビスさん。「私が活動を続けてきたのは、重大なニーズとそれを改善できる機会があるからです。小口融資と社会起業という解決方法が世界中に浸透してきたのは、私にとってとても幸運でした」。

ロータリーの奨学生として学んだことについては、次のように語ります。

「それまでは、オックスフォード大学など天上の存在だと思っていました。ところが実際に学生たちと知り合ってみると、貧富の差にかかわらず、誰でも弱点があり、完璧な人間などいないことが分かったんです」

次年度テーマは「人類に奉仕するロータリー」 会長エレクトが発表

米国サンディエゴで開催中のロータリー国際協議会で、18日、ジョン F ジャーム会長エレクト (米国テネシー州、チャガヌーガ・ロータリークラブ所属) が講演し、次年度のテーマ「人類に奉仕するロータリー」を発表しました。

ロータリー創始者ポール・ハリスが「人生の最大の目的は人類に奉仕すること」と信じていたことに触れ、ロータリーの一員であることはそのための「大きな機会」だとジャーム会長エレクトは述べます。「ロータリーを通じて社会に貢献する大きな機会、人類へのロータリー奉仕を通じてより良い世界を築く機会なのです」

発展途上地域におけるきれいな水の提供、紛争地域での平和推進、基本的教育と識字率向上を通じた人びとのエンパワメントなど、世界中のロータリー会員はさまざまな奉仕活動にあ

たっています。

その中でも特に重要なのがポリオの撲滅であると強調した会長エレクトは、ナイジェリアとアフリカ全土における野生型ポリオウイルスの感染抑止という昨年の歴史的できごとにも触れました。ナイジェリアがポリオ常在国リストから除外された現在、常在国はアフガニスタンとパキスタンのわずか2カ国。ポリオが撲滅されれば、人類史上撲滅された病としては天然痘に続き2番目となります。

「ロータリーは今、岐路に立っています。来年度は、世界で最後のポリオ症例が報告される年となるかもしれません。そうなれば、ロータリーの歴史において最も重要な年となります」とジャーム氏。

いずれポリオ撲滅が実現したときについて、今から準備しておくことが極めて重要だと訴えます。「ポリオ撲滅におけるロータリーの貢献を十分認識してもらうにはどうしたらいいか。この成功を、その後数十年にわたって、他団体との協力、会員増強、より野心的な奉仕活動にどうつなげていくか、ということです」

さらに、出席したガバナーエレクトに向け、ポリオ撲滅でロータリーが果たした役割についてクラブと地域社会で情報を広げるよう呼びかけました。社会貢献をしたい人たちが、ロータリー入会こそが世界を変える方法だと考えるようにすること。そのためには、クラブにその機会を提供する用意がなければならないのです

ロータリーのイメージ向上だけが会員増強の方法ではない、と会長エレクト。

「ロータリーがさらに前進するには、意欲と思いやりと知恵にあふれた人たちがもっと必要です。若い人たち、退職後間もない人たち、現役で仕事している人たちが皆、ロータリーに入会して活動したいと感じるような、柔軟性のあるクラブが必要なのです」



ロータリーニュース

次回〈1月25日〉の予定

神奈川RC・神奈川東RC合同賀詞交歓会

【2月5日(金)の予定】

テーマ「加齢と眼」

卓話者 田辺由紀夫 様

(紹介者 西山 潔 会員)